

2016岩手国体視察からの考察

■目的

- ・静岡県 of 戦いを分析・課題の抽出を行い、次世代育成へつなげる
- ・他県の戦いを分析し、静岡県の育成に生かす

■期間：10月2日～3日

■分析対象：4試合

- 1回戦 静岡 vs 北海道 (0-1)
東京 vs 熊本 (1-0)
- 2回戦 福岡 vs 千葉 (2-0)
神奈川 vs 長野 (2-0)

■報告対象者：CS および育成年代の指導者

■流れおよび全体像

サッカー少年男子は遠野市で開催され、天然芝2面、人工芝グラウンド1面で行われた。気温は、日中でも20度前後と良いコンディションだった。

登録選手はFP14人+GK2人。レギュレーションは、70分ゲーム+延長20分+PK戦。飲水タイムは取っていないかった。

優勝：広島 2位：大阪 3位：神奈川 4位：東京

■視察試合の分析

【静岡 vs 北海道】

お互い4-4-2システム。オール静岡 vs コンサドーレのような選手選考。

静岡は、水野・塩浜・清水の個人技を中心に（野球で例えるなら）1アウト3塁のようなチャンスを数多く作り出すも得点にならず、後半ラスト5分のバタつく時間帯の最後に失点し、敗戦。個々のシュートイメージ、それらを共有したチーム（グループ）としての得点パターンがあれば、2-0にも3-0にもなりえた試合だった。

【東京 vs 熊本】

熊本が4-1-4-1のアンカーに大型ボランチ（大津高2年：183cm）を配し、彼を起点に、丁寧なビルドアップからのフィニッシュを展開。シュート数は、東京9：熊本6も、決定機の数では熊本の方が上回る試合内容だったが、東京の右からのクロスボールがラッキーな形でゴールし、それが決勝点となった。熊本の決定的シュートが（蹴り足がボールへヒットせずに）枠外へ多く外れていたのが印象的だった。

【福岡 vs 千葉】

2回戦で実現したビッグマッチ。関係者も注目のゲームだった。

福岡4-1-4-1：千葉4-2-3-1（攻撃時は3-2-4-1にも見えた）。

後半30分までは、攻守に圧倒する千葉 vs ゴール前で人数をかけて粘り強く守る福岡の試合内容。後半30分に福岡が2トップ気味にシフトチェンジし、ショートカウンターから先制、アディショナルタイムに追加点を奪い勝利した。

千葉の特徴

CBとV0にレイソルの選手を置き、SBが高い位置を取り、幅を取るCBの間にV0が落ちてくる形を基本形にして、中央のMFが流動的に動きながらビルドアップ・安定したポゼッションを展開。前線は市立船橋の選手を中心に、タイミングの良い動き出しからの背後への飛び出し・サイドチェンジからの逆サイド突破などから数多くのシュートチャンスを作った。しかし“得点のにおいがする場面”を作るものの、最後は福岡の固い守備に守られてしまった。ワンツースからの突破やワンタッチシュート、サイドからの速いグラウンダークロス、アーリークロスなどの工夫が見られたら、得点の可能性も高まったかもしれない。守備では、守⇒攻の切り替えが非常に速く、ボールロストの瞬間にファーストDFがプレスをかけていた。相手のボール状況が悪いとなると、さらにボールへのプレスを強めたり、挟み込んだりしてボールを奪っていた。よく訓練されているという印象であった。

(先発11人中、市立船橋5人・柏レイソル5人・ジェフ千葉1人)

福岡の特徴

両CBに182cm(東福岡高1年)・183cm(九州国際大附高1年)と高身長 of 選手を揃え、彼らを中心に、ゴール前では中央へ選手が集結し、クロスを跳ね返したり、シュートブロックをしたりして失点を防いだ。守備ブロックをペナルティエリア前にリトリートさせ、相手を「待ち構えて」守備をしようとしていたが、ブロック内に侵入してくる相手をつかまえられず、ボールにプレスもかけられずに何度もペナルティエリアへ運ばれたが、シュートブロックとゴールカバーの意識が高く失点させなかった。

■トピックス

① 中3の登録選手(出場全チーム)

山口(1:途中出場) 静岡(1:先発) 北海道(1:先発)
愛媛(3:先発1・途中出場1) 新潟(1:先発) 佐賀(1:控えGK)

② 早生まれ(高2)の登録選手(ベスト4進出チーム)

広島(1) 大阪(1) 神奈川(3) 東京(4)

□提言

3種年代から積み上げたいもの

①パススピード

千葉・福岡・神奈川と比べて静岡が劣っていた技術の1つだった。特に、ビルドアップ、サイドチェンジをする際に顕著な差として表れていたように思う。

②ビルドアップ

千葉と神奈川は、GKもしくはCBから数的優位(アドバンテージ)を共有しながらビルド

アップをし、ほとんどのマイボールを前向き状態でハーフラインを越えることができていた。そのため、攻撃に厚みを作り多くの選手が関わりながらチャンスを作り出していた。静岡は攻撃時に4-2-4のようなポジショニングになり、選手のモビリティが少なく窮屈そうに見えた。静岡の選手が持つテクニックがあれば、安全確実なビルドアップは可能だと感じる。

③県トレセンの活動で求めること (U13・U14・U15)

3種年代の県トレセンの活動回数は、様々な事情により年々少なくなっている。しかしながら、選手に刺激を与える重要な活動である。量より質で勝負しなければならない。国体分析の課題について、3種県トレセンのコーチ間で共有し、質の高い活動を提供できるよう努めたい。

報告者： 佐藤 文彦 (浜松開成中：3種)